

「川崎市バス事業経営問題検討会」での審議および答申について

持続可能な地域交通を考える会（略称 SLTc、以下「当会」）では、担当者が同検討会に毎回傍聴に伺うとともに、審議内容を会員に報告して議論し、本年7月21日には当会の意向を取りまとめた提案書

市バスと市政が連携し、持続可能な地域交通の利用推進を！
— 市バスの経営戦略と川崎市の交通政策に関する提案書 —
<http://sltc.jp/file/2008/200807kawasakibus.pdf>

を同検討会宛に提出するなど、その動向を注視してまいりました。

当該検討会は昨日結審しましたが、当日も傍聴に伺うとともに、これまでの検討会で市民にとって日々の生活を支える重要な交通手段である路線バス・サービスの継続的な提供とその利便向上を念頭に置いてご検討いただいたことに対するお礼状を差し上げてまいりました。なお、お礼状本文は当報道発表資料に添付するとともに、当会ホームページ <http://sltc.jp/file/2008/20080826.pdf> でもご覧いただけます。

また、昨日結審した答申本文は川崎市の報道発表資料

http://www.city.kawasaki.jp/press/info20080826_9/index.html で、会議録は検討会ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/82/82keiei/home/manage/conference.htm> で、各々ご覧いただけますが、たとえば路線バスの利便性を向上させることや、「マイカー」（注記：最終答申では「私的交通手段」との表記に変更されています）から公共交通への転換をすすめること、広く公共交通機関に働きかけた上で「総合交通政策」を早急に取りまとめることなどが提起されたことを評価するとともに、今後は本答申を受けた川崎市および関係各所の取り組みを注視してまいります。

当会としても、公共交通サービスの向上はクルマに頼らず持続可能な地域交通の利用をすすめるために不可欠と考えておりますので、今後とも市や各事業者の対応を見守るとともに、引き続き市民のみなさんに持続可能な地域交通を安全・快適・便利に利用していただけるよう取り組みをすすめてまいります。

以上

持続可能な地域交通を考える会 (SLTc)
<http://sltc.jp/>

担当：井坂 <isaka@sltc.jp>
お問い合わせ→ <http://sltc.jp/query>
FAX: 020-4664-6084

【持続可能な地域交通を考える会】

自動車をもたらす様々な公害や気候変動などの環境問題を鑑み、クルマに頼らず持続可能な地域交通を求める諸活動を行ってきた有志が集い2008年に市民活動団体として活動開始。同年7月現在では交通・環境分野に関心を持つ川崎市民を中心に10名あまりが参加し、川崎市を中心に活動を進めている。他地域で活動する諸会と連携しつつ、交通・環境分野における地域の課題を見出し、持続可能な市民生活を実現するための地域交通の在り方を議論・提言している。略称 SLTc。
現在は、自動車の氾濫による大気汚染や道路需要の増加（渋滞、道路建設による環境破壊や経済的損失等）が深刻な川崎市域の実情を踏まえ、とりわけ「マイカー」の氾濫がもたらす様々な社会・環境問題とそれを抑制するための切り札となりうる公共交通の活用について検討を重ねている。定例会は毎月第2木曜日夜または土曜日午後に開催しており参加自由。詳しくはホームページ <http://sltc.jp/> を参照。

拝啓 残暑の中にも涼しさを感じられるようになった今日この頃、委員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度の「川崎市バス事業経営問題検討会」での議論におかれましては、日々の市民生活を支える重要な地域の足である路線バス事業の継続的なサービス水準の維持・向上に格段のご配慮をいただき、ありがとうございます。また、その会期中のお忙しいところにもかかわらず、当会より差し上げた提案書

市バスと市政が連携し、持続可能な地域交通の利用推進を！
— 市バスの経営戦略と川崎市の交通政策に関する提案書 —

についてご検討いただいたことにも、感謝申し上げます次第です。

昨今、公害や気候変動など一層深刻化する環境問題はもとより、繰り返される悲惨な交通事故、燃油の市場価格の上昇、さらには高齢化による交通弱者の拡大も見込まれる中、これまでの「クルマ社会」は世界的に行き詰まりを見せており、持続可能な市民生活を考える際に公共交通の位置付けはますます重要になっていると感じております。事実、当会はもとより、日頃より市内で活動されている様々な立場の方々が、路線バスをはじめとする今後の交通政策に関心を高めているところです。貴会でもご議論いただいたように、自治体、事業者、および市民が、地域の交通体系について検討を重ね、総合的な交通政策を取りまとめることの必要を感じております。

また、先の委員のご発言にもあったように、川崎市内では今でも路線バスが高度に利用されており、その需要を各事業者がうまく分担していると考えておりますが、本日の答申は、川崎市交通局をはじめとする各事業者が協働し、今後ますます高水準の路線バス・サービスを提供し続けていただく、そのきっかけになるものと期待しているところです。

今後は、この答申を受けての市の取り組みが期待されますが、まずはそのきっかけをつくってくださった委員の皆様方に御礼を申し上げます次第です。ありがとうございます。

敬具

平成20年 8月26日 持続可能な地域交通を考える会
会員一同

持続可能な地域交通を考える会 (SLTc)

<http://sltc.jp/>

担当：井坂 < isaka@sltc.jp >

Webからのご連絡→<http://sltc.jp/query>

FAX: 020-4664-6084